

福祉情報の現状と課題

坂 本 健

要約：社会福祉の分野においても、福祉情報を利用した活動が多く見受けられるようになってきた今日、社会福祉を取り巻く全般的状況を念頭におきながら、福祉情報の必要性和今後のあり方について、その視点を明らかにすることから、今後の方向性を見出そうとした。

見出し語：福祉情報、福祉情報システム、福祉情報の提供

I 福祉情報の必要性

福祉ニーズの複雑・多様化等に対応して、福祉サービスも多様化するとともに、その提供主体も多元化する傾向が見られる。こうした傾向は、高齢社会が進行するにつれ、シルバー産業に代表される福祉産業が台頭してくる中で、ますますその様相を強めていくものと予想される。このような状況から、福祉サービスを求める人が、様々なサービスの中から、個々のニーズの状態に合致した、有効かつ適切なサービスをどのように選択していくかが大きな課題となってきた。そのためには、福祉サービスの種類や条件、具体的内容についての情報（こうしたものの一切を福祉情報という）が必要である。ま

た一方サービス提供者側においても、福祉サービスを効果的・効率的に運用していくために、適切な福祉情報の提供により、利用者側のニーズに精緻に对应していくことが求められている。にも合致するものであり、そのための条件として、福祉サービスの実態が利用者に伝えられていなければならない。福祉情報の必要性が高まる大きな理由がここにあるといえる。

こうした社会福祉の全般的状況は、福祉サービスの形態が、施設入所サービスに加え、在宅福祉サービスの比重を高めている今日、福祉ニーズが生起する地域社会においてそのニーズの充足をリアルタイムにはかることが重要であるとの考えに立脚するものである。このような意

* 日本総合愛育研究所

(Nippon Aiiku Research Institute For Maternal Child Health & Welfare)

味から、福祉情報の充実が強く求められてくるわけであるが、これは、今日の社会福祉の理念である、社会福祉サービスは誰もが必要な場合に必要だけ利用することができるという考えにも合致するものであり、そのための条件として、福祉サービスの実態が利用者に伝えられていなければならない。福祉情報の必要性が高まる大きな理由がここにあるといえる。

Ⅱ 福祉情報の問題点

しかしながら、福祉情報の構築にはいくつかの問題点が存在する。まず第一に、福祉の概念のあいまいさと不統一、関連領域との接点の不明確さ、制度や施策の細分化、地域事情の相違等により、福祉情報の作成・提供に困難を来していること、第二に、福祉活動には本来ヒューマンな部分が少なくないことから、必ずしも情報サービスがマッチするとは言い難い側面を有すること、第三に、福祉ニーズとの関連において、情報提供可能部分と困難部分とが存在すること、第四に、有用な福祉情報とは何かについての検討が十分なされているとは言えない状況であること、などが上げられる。

しかし福祉情報の整備は、等質的な、またより質の高いサービスを提供（受け手にとっては入手）するための大きな資源となりうること、今後地方公共団体の事業が拡大する中で、一人一人のニーズと最適なサービスとを的確に結び付けることを可能とする役割への期待、そしてノーマリゼーションの考えのもと、障害をはじめとするハンディキャップを有することからくる生活上の不利をいくらかでも防止させる一方

法となりうることなどの理由により、福祉情報の整備が強く要請され、研究されているのである。

Ⅲ 福祉情報の拡大にむけて

福祉関係三審議会合同企画分科会意見具申「今後の社会福祉のあり方について」（平成元年3月30日）の中においても、福祉情報には大きな位置付け、方向づけが与えられている。おそらく今後福祉情報が担う役割の大きさは、今日以上に拡大することは間違いないと思われる。しかし前述した問題点に併せて、福祉情報の拡大のために、考察しなくてはならない共通課題がある。

それは一つは、福祉情報のプライオリティの問題であり、今一つは、関連領域との連携のあり方である。

精度の高い福祉情報を提供するためには、十分なニーズ把握が前提条件である。潜在化する危険性のある福祉ニーズをどのようにくみあげていくか。と同時に、ニーズ把握を受けて、そのニーズの緊急性、福祉情報として提供した場合の効果、利用頻度の予測等を総合的に判断することにより、福祉情報の優先度を決定することが肝要となる。限られた人的・物的・時間的制約のもとでは、この問題に対する考察も大きなウェイトを占めるに違いない。

第二に、社会福祉だけでは十分なサービスを提供することが困難となりつつある現在、関連領域との協働によって、情報の交換・共有と、ネットワーク推進が不可欠である。例えば高齢社会の進展に伴い、寝たきり老人をはじめとす

る要介護老人が増加傾向にあるが、こうした老人と家族にとっては、福祉ニーズと保健・医療ニーズとを併有しているわけであり、両面からのアプローチ福祉情報と保健・医療情報との連携が強く求められているのである。また人生80年時代を迎える中で、健康についての関心が高まりつつあることから、連携の推進が支持される。実現に際しての具体的問題は今後の課

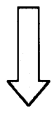
題であるが、まずは相互の立場・状況を理解しあうことから着手していかななくてはならない。そしてこのような各種情報が、問題解決と福祉向上にどのように有効に寄与しえたかについて、地域を舞台としながら、福祉・保健医療の共同により評価していく態勢を築くことが求められる。

※文献

福祉情報について、総合的にまとめられたものはあまり多くない。その中で、次ぎの著書は、いくつかの具体的事例を紹介しながら、ハードウェア・ソフトウェアの両面から、この問題について考察されている。

高橋紘士著『社会福祉情報論』

(全国社会福祉協議会社会福祉研修センター 昭和60年2月初版)



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:社会福祉の分野においても、福祉情報を利用した活動が多く見受けられるようになってきた今日、社会福祉を取り巻く全般的状況を念頭におきながら、福祉情報の必要性和今後のあり方について、その視点を明らかにすることから、今後の方向性を見出そうとした。